

顕彰状

李鶴洙（イ・ハクス）氏は1946年6月25日に大韓民国慶尚南道密陽で生まれ、1965年に高麗大学校商科大学商学科に入学し、1969年に同学科を卒業した。1971年に高麗大学校経営大学院を修了、サムスングループの関連会社である第一毛織に入社した後、サムスングループ会長秘書室室長社長や、サムスン電子会長室室長代表取締役副会長などの主要職責を全うして同グループを世界的企業に成長させることに大きく寄与した。この功労が認められ、2002年に大韓民国金塔産業勲章を授与されている。

2016年から2019年の間にあっては、高麗大学校の第32代校友会会長および法人理事として、高麗大学校校友会および高麗大学校の発展に献身した。2019年には高麗大学校名誉経営学博士を授与されている。

李氏は経済界への貢献のほか、母校への支援を通じて、同国の教育研究の発展にも尽力してきた。高麗大学校校友会の会長としては積極的な改革を行い、組織の活性化や母校支援の強化、高麗大学校校友会の社会的な価値の増大など、校友会のさらなる発展のために優れた手腕を発揮したほか、高麗大学校に対して革新先端技術やビジネス開発と関連した人材育成に資する等の多大かつ継続的な支援をしてきた。このことは校友たちの手本となっている。

また、経済的に困窮する学生たちに奨学金を給付するなど、学生が安心して学業を続けることのできる修学環境の改善にも貢献している。さらに高麗大学校卒業生のために起業支援の組織として高麗大学校ビジネススクール（KUBS）・スタートアップ研究所の開設に尽力し、多額の寄付を行っている。現在では同組織の支援を受けて経済界で成功した高麗大学校校友の企業経営者たちが、後輩の起業を支援することでいっそうビジネススクール（KUBS）が活発化するという好循環を生み出しており、このことは経営者・起業支援家としての同氏の卓見によるところが大きい。

そのほかにも、本学とサムスングループとの関係は深く、本学校友でサムスングループをグローバル一流企業に跳躍させた李健熙会長は本学の発展のため大きな支援を行っており、早稲田キャンパス3号館には李健熙氏の名前を冠した記念図書館が設置されている。本学は2010年に李健熙氏の功績に対して名誉博士学位を贈呈しているが、この間、李鶴洙氏はサムスングループ経営幹部のひとりとして、サムスングループと早稲田大学の緊密な関係の構築に一貫して重要な役割を果たしている。

早稲田大学と高麗大学校は1962年から始まったサッカー定期戦をきっかけに1973年に学術交流協定を締結し、長い間学術・スポーツ・文化活動分野で交流してきた。さらに2002年、高麗大学校校友会と早稲田大学校友会は交流協定を締結している。両校友会は互いの開校記念日訪問を定例化し、スポーツ交流、校友会員交流など学生と教職員だけでなく校友を含む多様な交流に拡充してきた。李氏の校友会会長在任時代には本学を含む日韓私大トップ4校で共催する「日韓ミレニアムフォーラム」を高麗大学校で開催（2017年）し、日韓の学術交流の発展に大きな役割を果たした。また、両校の総長・校友会会長の相互の頻繁な往来により両大学の校友間の親交を深めるとともに、ひいては日韓両国間の親善への貢献となってきた。この間の李氏のリーダーシップは、高麗大学校校友会と早稲田大学校友会の友好的かつ親密な関係構築に長きにわたり大きな刺激を与え、その関係の一層の強化と両校友会活動の活性化に非常に大きな影響を残している。

高麗大学校は「世界で輝く WASEDA」として、世界へ貢献する大学を目指す本学にとり、最も重量なパートナーのひとつであり、大学間の学術交流とともに両大学の校友会を通じた幅広い相互交流が活発に営まれてきたことを踏まえ、歴代の高麗大学校校友会会長に名誉博士学位を贈呈してきた。

以上のように、李氏は大韓民国の経済界の発展に大きく寄与し、その確かな実務経験に裏打ちされた卓越したリーダーシップと学術への深い理解をもとに、高麗大学校の改革を通じた教育・研究への貢献、ならびに校友会会長として両大学の友好関係、および学術交流の更なる発展に多大な貢献をし、本学の国際化に寄与してきたことが認められる。

高麗大学校校友会元会長・李氏に本学名誉博士の称号を贈呈することは誠に時宜に適っているというべきである。

ここに早稲田大学は、李鶴洙氏に

名誉博士（Honorary Doctor of Laws）の学位を贈ることを決議した。

学問の府に栄えあれ！

大学が栄誉を与えんとする者を讃えよ！

(Vivat universitas scientiarum! Laudate quem universitas honorabit!)